

第73回秋季東北地区高等学校野球大会

□大会第3日目 10月17日(土)

準々決勝	仙台市民球場	3時間	16分		打安点盗犠四三残失併
柴田	2 0 0 0 0 0	2 2 9		15	【柴】 44 18 14 1 4 7 10 13 2 0
東日大昌平	3 0 1 1 0 0	0 0 5		10	【東】 44 18 9 3 2 2 1 11 3 0
(球) 浅利卓美 (一) 西尾新一 (二) 浅野卓也 (三) 小松宗夫					▽本塁打 なし
【柴】 谷木, 岩崎, 日下	—	舟山			▽三塁打 岸田, 室塚(東)
【東】 矢板, 鈴木, 草野, 遠藤	—	岸田			村上, 舟山 (柴)
▽暴投 岩崎1(柴), 矢板1(東)		▽捕逸 岸田1(東)			▽二塁打 邊見, 岸田 (東)

【評】
柴田が互いに18安打を放つ打撃戦を制し、準決勝へと駒を進めた。柴田は3点ビハインドで迎えた7回、5番村上の適時二塁打と捕逸で1点差に迫ると、続く8回には4番菅野の2点適時打でついに逆転。9回には打者14人の猛攻で一挙9点を挙げ突き放した。柴田の先発谷木は被安打12と毎回のように走者を許しながらも、粘り強い投球で逆転を呼び込んだ。東日大昌平は9回に5点差まで追い上げたが、及ばなかった。

準々決勝	仙台市民球場	1時間	52分		打安点盗犠四三残失併
仙台育英	2 3 0 0 3 0	3 0 0		11	【仙】 32 8 7 3 1 6 1 7 0 0
羽黒	0 0 1 0 1 0	0 0 0		2	【羽】 23 2 2 0 0 3 7 3 5 0
(球) 湊 尚美 (一) 綿田代志昭 (二) 沼辺力也 (三) 菅原 幸					▽本塁打 櫻井(羽)
【仙】 松田, 小林	—	木村			▽三塁打 櫻井(羽), 浅野(仙)
【羽】 奥中, 本間	—	高橋柁			木村2, 浅野, 岡田 (仙)
▽暴投 本間2(羽)		▽捕逸 なし			▽二塁打 なし (羽)

【評】
山形と宮城の第一代表校同士の戦い。1回表育英は一番浅野の右中間三塁打と2番島貫の中前打、ショートゴロエラーで2点を先制。続く2回には9番木村のレフト線二塁打と浅野のレフト越え二塁打、レフトフライエラーで3点を加え試合の主導権を握った。育英の猛攻は止まらず、5回にも2四球を足掛かりに島貫の右前打、木村のレフト線二塁打、ファーストゴロエラーで3点、7回には死球と右前打、相手投手の2つの暴投、犠打野選で3点を奪い、合計11点を奪い7回コールド勝ちを収めた。
羽黒は3回裏1番櫻井のレフト越え本塁打、5回にも櫻井の右中間三塁打で2点を挙げたが、育英先発の松田とリリーフの小林の前にわずかに散発2安打に抑えられた。羽黒は守備も乱れ、5失策が失点に結びついたのも痛かった。

準々決勝	石巻市民球場	2時間	11分		打安点盗犠四三残失併
東北	0 0 1 0 1 0	1 1 0		4	【東】 38 15 4 1 4 3 4 14 0 0
日大山形	0 0 1 3 1 0	2 0 X		7	【日】 32 10 7 2 3 3 7 7 0 0
(球) 小松健春 (一) 小泉忠夫 (二) 毛利 晃 (三) 手塚仁基					▽本塁打 なし
【東】 鍵本, 庄司, 司城	—	中道			▽三塁打 秋葉, 梅津(日)
【日】 齋藤, 滝口	—	梅津			竹中 (東)
▽暴投 滝口2(日)		▽捕逸 中道1(東)			▽二塁打 佐藤, 伊藤 (日)

【評】
両チーム2桁安打を放つ乱打戦を制したのは山形第1代表の日大山形であった。
先制したのは東北。3回先頭の庄子が三塁への内野安打で出塁し、犠打で一死二塁から三番竹中の左翼線を破る二塁打で先制した。しかしその裏、日大山形は秋葉の右中間を破る三塁打と犠飛ですかさず同点とした。さらに日大山形は4回裏、4つの安打を重ね3点を加え試合を優位に進めた。
日大山形を上回る15安打を放った東北であったが、好機でのあと一本が出ず追いつくことはかなわなかった。

準々決勝	石巻市民球場	1時間	40分		打安点盗犠四三残失併
八戸西	0 0 0 0 0 0	0 0 1		1	【八】 27 3 1 1 2 2 6 3 1 0
花巻東	0 2 0 0 0 0	0 0 X		2	【花】 25 4 2 1 3 2 6 4 0 0
(球) 雁部博昭 (一) 武田 徹 (二) 高橋正博 (三) 水戸恭平					▽本塁打 なし
【八】 福島	—	藤本			▽三塁打 菱川(花)
【花】 中居	—	田代			▽二塁打 桐山 (八)
▽暴投 なし		▽捕逸 田代1(花)			菊池開 (花)

【評】
先制したのは花巻東。2回裏、4番菱川が右翼への三塁打で出塁し、続く5番菊池の右翼越え二塁打で1点、その後、犠打・犠飛で1点を追加し、八戸西の好投手福島から2点を先制した。投げては左腕中居が7回まで八戸西打線を無安打に抑え、9回表に連続安打で1点を失うも3安打に抑え準決勝進出を決めた。
八戸西は、投手福島が2回に2失点した後は、花巻東の打線を散発2安打に抑え、味方の援護を待った。最終回に2番桐山の右中間への二塁打、3番西谷の右翼前への連続安打で1点を返すも後続が倒れ1点差で惜敗した。